

地方交付税が不交付に

ホンダの法人税収が伸び、計算上「金持ち」に

本年度、鈴鹿市は国から交付される「地方交付税」が不交付＝ゼロとなる
ことが、市議会全員協議会で報告されました。地方交付税は、市町村が標準
的な行政を進めるため必要な財源に不足する分を、国から補填されるもので、
日本中の市町村に著しい格差を作らないための措置です。

この交付税が出ないということは、鈴鹿市の自主財源が増えて「金持ち」
になったことだ、と、以前は言えたのですが、今回はいろいろカラクリがあ
るようです。いちおう計算上は、ホンダを中心とした法人市民税が伸びて、
一昨年に 4 6 億円、昨年は 5 0 億円、今年も 4 0 億円ほどの見通しで、昨年
2 1 億円入った交付税が、今年の計算上はマイナス 4 億円となり、不交付に
なるとのことでした。

国が交付税総額へらし、ハードル下げたのが原因

しかし、かつて平成 9 年から法人市民税が 6 9 億、5 2 億、6 0 億と続い
た時期がありましたが、交付税は不交付にはなっていません。また当時より
も今は税収総額は落ちています。それなのに交付税ゼロになるのは、国が勝
手にハードルを下げてしまったからです。支出のほうで、建設事業を去年と
同じだけしても、国は 2 5 % 少なく計算するのだそうで、1 0 0 円の仕事に
7 5 円しか払わないのだから、計算上はカネが余ることになります。

もう一つは、国が出すべき交付税を満額よこさずに、「あとで何とかする
から」と市町村に借金させているからです。今年も鈴鹿市では 2 2 億円もの
「臨時財政対策債」を借ります。これを国が現ナマでよこせば、「不交付」
にはならないのです。これらはまったくペテン師の手口です。

「小泉改革」なるものの正体は、要するに『地方いじめ』『国民いじめ』
だということが、いよいよ明らかになってきています。

「合併しない」選択は、財政的にも正解だった

今回、鈴鹿市が地方交付税「不交付団体」になったのは、国による交付税削減、自治体への責任転嫁によるものでありますが、しかしこのカラクリを使っても三重県下で不交付になるのは、鈴鹿市、川越町の2団体だけです。言い換えれば、他の市町村はもっと財政的にきびしいということです。

一昨年、四日市などとの「2市2町合併」論が吹き荒れたときに、「合併すれば黒字、しないと大赤字」という理屈が、脅し文句に使われました。その時に私は財政シミュレーションの数字を調べて、「合併しない場合の大赤字はじつは四日市市の赤字、鈴鹿市は黒字だ」ということを明らかにしました。

「すなわち、2市2町合併の本質は、四日市市の赤字を鈴鹿市がしりふきするものだ」と、議会で加藤市長を追及、合併議案は反対多数で否決になったのですが、いまの財政状態は、あのとときの指摘が当たっていたことを表していると思います。鈴鹿市が「合併せず単独でいく」道を選んだことは、正解でした。もちろん財政運営がきびしいことに変わりはありませんが、余計なことを考えずに、鈴鹿市の今と将来のために知恵と力を尽くせばいいのです。合併をめぐる県下あちこちのゴタゴタを見るにつけて、災難を避けられた鈴鹿市は幸いなりと、心から思うのです。

地震発生時の「液状化」マップが発表されました

地震の際に、地下の砂地盤が水圧の変化によって液体のようになる現象を「液状化」といい、その上にある建物などの被害が大きくなります。阪神大震災のときも、港や埋立地で大きな被害がありました。

このほど、鈴鹿市の液状化の予測を地図に表した「液状化マップ」が発表されました。危険度の高い順に赤、黄、低い所は緑、青と色分けされています。防災安全課の説明では、鈴鹿川、中の川の新旧河道、海岸線に赤い色が付いているが、その中でも昔からの東海道、伊勢街道の集落、神社寺院などは安全な所になっている、色が変わる境目は水路や土手などが目印になる、とのことでした。

このマップを参考にすることで、いま建っている家の対策、新たに建てる場合の場所の選定の役に立てることができます。マップは各市民センター、ホームページで公開される予定です。

体育館工事の入札、ピッタリ 95%

5件とも談合の疑い、郵便入札の効果なし

6月に行なわれた学校体育館の耐震補強工事の入札の結果をみると、不思議なことに気がつきません。5件ともほぼ95%のラインできれいに落札しているのです。これはとても、単なる偶然とは思えません。

学校名	予定価格	落札価格	落札比率%
鼓ヶ浦中	110,973	105,400	94.98
若松小	105,243	100,000	95.01
鼓ヶ浦小	103,993	98,800	95.00
井田川小	78,914	75,000	95.04
箕田小	87,156	83,200	95.46

小中学校体育館耐震補強工事の入札結果（単位・千円）

これ以外に、5月に行なわれた天名小体育館の入札も95.57%、また一の宮小校舎増築工事は96.10%と、昨年よりは平均で2%ほど下がってはいるものの、相変わらずの高値安定、「競争のない競争入札」です。6月議会で求めた、こちらから値を下げる「工事希望価格」の導入がやはり必要です。

甲子園、オリンピック、スポーツの夏でした

鈴鹿高校の甲子園大会初出場、オリンピック・マラソンの野口選手、レスリングの吉田選手、女子サッカーチームら三重県勢の大活躍など、スポーツの話題に明け暮れた夏でした。私も体力作りに一念発起、八ヶ岳、西穂高へ登って、アルプスの風に当たってきました。

日本のトップ選手中心の報道のなかで、しんぶん赤旗が、戦火の中から参加した「イラク・サッカーチームの活躍」や、「マラソンの最終ランナー・モンゴルのオトゴンバヤル選手」をたたえる記事もさわやかでした。一方、「オリンピック中の停戦」を訴えた柔道の山下氏らの声もとどかず、イラク攻撃を続けるアメリカの姿勢は、世界から追及されるでしょう。

いよいよ「スポーツの秋」、パラリンピックでの鈴鹿市の伊藤選手、9月5日に鈴鹿で開かれる「電動車イスサッカー大会」なども楽しみです。

ずいそう

ブッシュよ、恥を知れ！

話題の映画、マイケル・ムーアの「華氏911」が日本でも上映開始となった。2001年9月11日のニューヨークテロ事件から、アフガン侵攻、イラク戦争へと突き進んだアメリカ・ブッシュ大統領とその一味を、笑いと皮肉たっぷりに、しかしすべて事実にもとづいて告発した映画である。ムーア氏の著書「おい、ブッシュ、世界を返せ！」であばき出したブッシュ政権の真相を、みごとに映像化したものになっている。。

こんなでたらめな人物が世界を牛耳る恐ろしさ

9・11テロでアメリカ中が思考停止状態になっていた中、ムーア氏はブッシュがテロの首謀者とするオサマ・ビン・ラディン一族と親密な仲であること、タリバンとも石油や天然ガスの利権でつながっていることを暴露する。またイラクが「大量破壊兵器」を保有しているとの大ウソを理由に、ブッシュはイラク戦争を起こしたが、その前からイラクを攻めることは決めてあって、テロとか大量破壊兵器は単なる口実であった。「ジョージ・W・ブッシュはホワイトハウスを”大ボラ製造所”に変えた。汚い戦争を遂行しようと、大ボラを次から次に吹き続けた。それは成功した。」

恐ろしいと思うのは、これほど明白な事実をムーア氏が告発し、その映画がアメリカから全世界にかけて大ヒットしているのに、イラクの米軍はそのまま居座り、ブッシュもそのまま大統領のイスに平然と座っていることだ。

とうとう小泉の頭の中までブッシュそっくりに

ブッシュの言うことをオウム返しに日本の国会で繰り返してきた小泉首相。芸能好きの小泉氏が、この「華氏911」だけは見ようとしなない。ブッシュの大ボラに世界で一番賛成したのだから、見てから何かを言えば追及されそうで、できないのだろう。しかし、夏休みをとってオリンピックを見る暇はあっても、米軍ヘリ墜落で怒りに燃える沖縄の知事・市長にも会わないというのでは、いったいお前はどこの国のトップなのかと言いたくなる。すでにこの人物の頭の中は、ブッシュと同じだということなのだろう。